

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.25

目次

・特集：昨今の新型インフルエンザ事情	1
・平成22年度研究助成のお知らせ	3
・第8回日本生殖看護学会学術集会のご案内	4
・これから行われる学会・研修会情報	5
・理事会報告	6
・第2回関西地区勉強会報告	6
・各地区で開始する勉強会の支援	6
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	7
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.7	7
・掲示板	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

特集：昨今の新型インフルエンザ事情



新型インフルエンザは、昨年4月にメキシコで流行が認知された後、世界的に流行し、世界保健機関（WHO）は世界的流行病（パンデミック）であることを宣言しました。当初日本においても「水際作戦」と称し機内検疫を行い、発病が疑われた者はそのまま病院へ直行というニュースを記憶している方も多いのではないでしょうか。現在落ち着いてきたものの、新型インフルエンザは日本国中を揺るがしました。この経験は、正体ははっきりしないものに対していかに備えるか、様々な教訓を与えてくれたように思います。そこで、今回その経緯をふり返ると共に、対策を考える一助になればと思います。

1. 新型インフルエンザの現況

WHOが2月12日発表した新型インフルエンザの感染状況によると、2月7日時点で確認された死者数は少なくとも15,292人以上でした。北半球でのウイルスの活動は、日本を含め多くの地域で弱まりつつあるものの、流行のピークが遅れていた北アフリカ、南・東アジアではActiveな感染が続いています。

国立感染症研究所の報告によると、2010年第6週（2月8日～14日）のインフルエンザの定点当たり報告数は2.81（患者報告数13,479）と、全都道府県で3週連続減少しました。昨年（2009年）の第28週以降累積推計受診患者数は約2,043万人（暫定値）、最近の発生患者の殆どが新型インフルエンザに罹患しているものと推定されています。厚生労働省もその報告を受け、2月19日に注意報レベルとされる「1施設当たり10」を昨夏の流行開始以来初めて全都道府県で下回ったと発表しました。

予断ではありますが、例年であれば冬季に多かったノロウイルスの発生も今年は少なく、新型インフルエンザの予防のための手洗いが功を奏したと考えられています。その証拠に、昨今の新型インフルエンザの減少と共に、ノロウイルスの発生が増えてきたようです。

2. 新型インフルエンザに対する対応

1) 国の新型インフルエンザ対策

これまでの国の新型インフルエンザ対策の経過を次頁にまとめていますが、①水際対策（空港検疫など）、②医療機関での対応（発熱外来など）、③ワクチン接種（ワクチンの確保や優先接種順位の決定など）の3つに大別されます。

4月	21日：米国で豚インフルエンザ感染例が2例報告（現地時間） 24日：メキシコ政府が豚インフルエンザの感染を発表（現地時間） 28日：日本政府、機内検疫の実施を開始 30日：日本政府、 新型インフルエンザの発生を宣言
5月	9日：成田空港で3例の感染者を確認 16日：神戸で国内発生1例目を確認（その後、大阪・神戸で感染拡大） 22日：患者の急増地域に限り、発熱外来を設置していない一般の医療機関でも診療を可能に。機内検疫を中止
6月	19日：「運用指針」を改訂し、全地域で一般医療機関で診療し、軽症例は自宅待機に。
8月	15日：新型インフルエンザ感染患者で初の死者
9月	4日：ワクチンの優先接種順位を発表
10月	16日：接種回数を変更（13歳以上は原則1回に） 19日：医療従事者に対するワクチン接種を開始 20日：接種回数を変更（13歳以上は、医療従事者のみ1回で、他は2回を前提に継続検討）
11月	11日：接種回数を変更（13歳以上は原則1回で、中高生は当面2回）
12月	16日：接種回数を変更（中高生も1回に）
1月	15日：健康成人にもワクチン接種開始を発表 20日：輸入ワクチンを特例承認

これらの中には、内外から「非現実的」「やり過ぎ」「政治家のパフォーマンス」といった批判を受けたものもありました。神戸で発生が確認された際には、他の地域に行かないようにと缶詰状態となったり、マスク着用者が急増し、品切れ状態が続きました。海外からはそこまでやる必要はないと不評でしたが、日本がアメリカのように感染が拡大しなかったのは“マスクのおかげ”と現在になって専門家の間で評価されているようです。

2) 医療機関における新型インフルエンザ対応：ワクチン接種

妊婦特に妊娠後期の妊婦が新型インフルエンザに罹患すると重症化するリスクが高いという報告があり、WHOも妊婦をワクチン接種の優先対象としていることから、日本でも優先接種の対象とされました。また、妊娠初期にワクチンの接種を受けても流産や先天異常の発生リスクが高くなったという報告はなく、母乳を介しても乳児に影響を与えることはないと言われています。それを受けて、日本産科婦人科学会においても「妊婦もしくは褥婦に対しての新型インフルエンザ感染（H1N1）に対する対応 Q & A（医療関係者対象）」（http://www.jsog.or.jp/news/html/announce_20091109b.html）を発表しました。

一方、不妊治療中の女性に対するワクチン接種による影響は不明であるものの、一般の基準に沿って接種可能と考える施設が多かったようです。例えば、妊娠初期の流産に及ぼす影響を心配するのであれば、妊娠判定までに接種し、妊娠判明後は少なくとも10週間までは接種を見合わせるとしています。

3) 教育機関における新型インフルエンザ対応

お子さんのいる家庭では、子どもへの感染の心配に加え、学級/学校閉鎖の対応で大変だったことと思います。また、今春の高校受験、大学受験に対して、文部科学省は新型インフルエンザに対する措置（再試験の実施、罹患を疑う学生が受験するための予備室の準備）を講ずるよう通達を出しました。大学入試センターでも、今年はセンター試験の本試験を受けられなかった受験者972人を対象に、各都道府県48会場で追試験を実施しました。追試験は例年、東京と大阪だけで実施するのですが、今年は新型インフルエンザの影響が懸念されたため、全都道府県に会場を設けたのです。

3. 新型インフルエンザに対する Q&A

ご存じの方もいると思いますが、厚生労働省が提供しているサイトの内容を抜粋してご紹介します。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/02.html#10>

Q1：インフルエンザウイルスは環境中でどのくらい生きていますか？

A1：環境表面の状況や気候条件、或いは付着したウイルスの状態と量によっても変わってきますが、通常の飛沫が付着した場合には、約2-8時間程度と考えられています。

Q2：設備の消毒は必要ですか？

A2：ウイルスが生存している状況では、環境表面に付着したウイルスが手に付着し、それを鼻や口にもっていくことで接触感染する可能性が知られています。従って、インフルエンザを発症した方が出入りしている病院などでは、頻繁に接触する環境表面（ドアノブなど）を適宜アルコール等で清拭することが効果的と考えられます。清拭後は手洗いや擦式手指消毒剤による手指衛生を行ってください。

Q3：インフルエンザの消毒には、何を使用すればよいでしょうか。

A3：ウイルスの中では消毒薬には比較的弱い部類に入ります。56℃ 30分の加熱、紫外線、エーテルなどの脂質を溶かす溶媒や界面活性剤、次亜塩素酸ナトリウム、エタノール等により容易に不活化されます。通常は、エタノール製剤60～80%が勧められており、15秒以内に4log以上の不活性化が可能と考えられています。

（文責：野澤美江子）

平成22年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

今年度より10万円/件に増額しましたので是非ご活用下さい。詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】

平成22年9月1日～平成23年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成22年4月1日(木)～6月30日(水)

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成22年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

長岡 由紀子（将来検討委員）

茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科

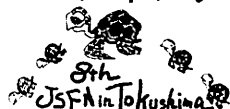
〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

Tel: 029-840-2136 Email: nagaoka@ipu.ac.jp

第8回日本生殖看護学会学術集会のご案内

メインテーマ：不妊の意味を考える～治療開始から終結に向けて～

2010.9.12(日)開催 於：徳島大学 蔵本キャンパス



生殖医療技術が高度になるにつれて、治療における選択肢も多くなってきた半面、不妊の問題も複雑化してきていると思います。ARTにより、児に恵まれなかったカップルもわが子を胸に抱くことができたカップルもいらっしゃいますが、まだまだわが子を諦めなければならない方もいらっしゃるのも事実です。体外受精の技術が世に生み出されて30年。今一度生殖における不妊治療やその倫理的問題について、それぞれに与えられた人生について、これからの治療の方向性を見据えて、看護者としての役割を追究していきたいと思います。

♡ 学術集会概要

9:15～9:25	オリエンテーション
9:30～10:00	会長講演「不妊治療の意味を考える～治療の終結をどう迎えるか」 徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部 岸田 佐智
10:05～10:55	基調講演「生殖医療に伴う倫理的課題の変遷」 徳島大学長 青野 敏博
11:00～11:30	総会
11:00～13:00	ポスター発表および質疑応答 昼食
13:15～14:45	一般演題（口演）
15:00～16:30	分科会および事例検討会 Ⅰ：不妊治療の体験から考えたこと（人と地域の研究所 山中 和子） Ⅱ：不妊症看護認定看護師の病院での役割（JA 高知病院 関 正節） Ⅲ：高齢化と治療の選択（徳島大学大学院教授 安井 敏之）
16:45～17:45	特別講演（検討中）
17:45	閉会

♡ 参加申込み方法

郵便振込にてお手続き下さい。事前申込みは8月20日(金)までです。

♡ 一般演題・ポスターのお申込み方法

申込みはメールでのエントリーとします。演題申込みは4月30日必着、演題抄録締切は5月21日必着です。なお、用紙はHPからダウンロードできます。

♡ 事例検討会のお申し込み方法

申込みはメールでのエントリーとします。検討事例の申込みは4月30日必着です。なお、用紙はHPからダウンロードできます。

♡ 宿泊について

各自でお申込み下さい。

♡ お問い合わせ先

第8回 日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：芝崎 岸田）
〒770-8509 徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15 徳島大学保健学科内
TEL & Fax：088-633-9032 E-mail：jsfn8th@yahoo.co.jp
HP：http://www.geocities.jp/jsfn8th/index.html

●●●これから行われる学会・研修会情報 (2010年4月～9月)●●●

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
2010年 3月	20日・21日	日本助産学会 (第24回) 「助産を育む -Raising Midwifery-」	つくば国際会議場 (茨城県つくば市)	MA コンベンションコンサルティング TEL : 03(5275)1191 FAX : 03(5275)1192 http://www.macc.jp/jam2010ibaraki/
4月	23日～25日	日本産科婦人科学会 (第62回)	東京国際フォーラム (千代田区)	MA コンベンションコンサルティング TEL : 03(5275)1191 FAX : 03(5275)1192 http://www.jsog.or.jp/
5月	28日～30日	日本遺伝カウンセリング学会 (第34回)	東京女子医科大学 弥生記念講堂 (新宿区)	東京女子医科大学附属遺伝子医療センター (担当: 松尾真理、浦野真理) TEL : 03(3353)8111 (内34236) http://www.jsgc.jp/
6月	4日	日本不妊カウンセリング学会 (第9回)	ニッショーホール (東京都港区)	http://www.jsinf.com
	5日・6日	不妊カウンセラー・体外受精 コーディネーター養成講座 (第26回)		
	19日	日本母性看護学会 (第12回) 「今、改めて周産期ケアを問う」	三重県立看護大学 (津市)	三重県立看護大学内 (担当: 永見) FAX : 059-233-5681 E-mail : jsmn2010@mcn.ac.jp http://www.mcn.ac.jp/bosei/index.htm
	12日・13日	日本保健医療行動科学会 (第25回) 「心と身体に効く支援技術と理論の統合」	前橋プラザ元気21 (群馬県前橋市)	群馬大学医学部保健学科看護学専攻 岡研究室 TEL : 027(220)8926 Fax : 027(220)8999 http://jahbs.info/
	27日～30日	ESHRE : ヨーロッパ生殖医学会 (第26回)	ローマ (イタリア)	ESHRE Central Office http://www.eshre.com/
7月	28日・29日	日本受精着床学会 (第28回)	パシフィコ横浜 (横浜市)	聖マリアンナ医科大学産婦人科学教室内 TEL: 044-977-8111 (内3332) FAX: 044-977-2944 http://www.jsfi.jp/index.html
	29日・30日	日本看護学会: 母性看護 (第41回)	つくば国際会議場 (茨城県つくば市)	日本看護協会看護教育研究センター http://www.nurse.or.jp/index.html
8月	6日・7日	日本女性心身医学会 (第39回)	大宮ソニックシティ (さいたま市)	http://www.jspog.com/
9月	12日	日本生殖看護学会 (第8回) 「不妊の意味を考える～治療開始から終結にむけて～」	徳島大学長井記念 ホール (徳島市)	第8回日本生殖看護学会学術集会事務局 TEL/FAX 088(633)9032 E-mail: jsfn8th@yahoo.co.jp http://www.geocities.jp/jsfn8th/index.html (近日中に公開予定です) http://jsin.umin.jp/
	18日・19日	日本 IVF 学会 (第13回)	大阪国際会議場 (大阪市)	日本 IVF 学会事務局 TEL: 06(6534)8824 FAX: 06(6534)8876 http://www.ivf-et.net/

ぜひご発表・ご参加下さい

*2010年2月10日現在の情報です。詳細は各学会・学術集会事務局へお問い合わせください。

理事会報告

第1回理事会報告

日時：平成21年9月12日(土)17時40分～17時55分 場所：三重県立看護大学大会議室
出席理事：森明、村本、阿部、遠藤、岸田、清水、長岡、橋村、森恵

【審議事項】

1. 理事長、副理事長の選出
理事長：森明子氏、副理事長：村本淳子氏とすることを承認。併せて新理事の各担当委員会を承認。
2. 第8回学術集会
日時：平成22年9月12日(日) 9時30分～、会場：徳島大学長井記念ホールにて開催予定。

第2回理事会報告

日時：平成21年10月17日(土)18時00分～19時30分 場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム
出席理事：森明、村本、阿部、上澤、岸田、長岡、橋村、矢野、崎山 (オブザーバー)

【報告事項】

1. 第7回学術集会総括
2. 看保連対応 WG：8月27日の厚労省保険局からのヒアリング後、質問に対する回答を準備中。

【審議事項】

1. 入会審査：2名の新規入会を承認。
2. 各委員会幹事の承認。

第3回理事会報告

日時：平成21年12月18日(金)18時00分～19時25分 場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム
出席理事：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、長岡、橋村、矢野

【報告事項】

1. 看保連対応 WG：11月14日開催の看保連看護技術検討委員会に出席。本学会からの次回の申請は様子を見て検討することを確認。
2. 教育推進委員会：地区勉強会の支援について、今年度中に勉強会開催に関する助成基準等の作成を行う予定。

【審議事項】

1. 入会審査：5名の新規入会を承認。
2. 排卵誘発剤の在宅自己注射導入時のクリニカルパス作成：ワーキンググループを立ち上げ、本学会でクリニカルパスを作成予定。

第2回関西地区勉強会 報告

IVF なんばクリニック 浅井 麻利子

平成22年1月31日、「卵子提供による体外受精と看護」というテーマを掲げ、関西地区の勉強会を開催いたしました。当日は悪天候にもかかわらず、看護師、助産師、教員、カウンセラーなど多職種42名にご参加いただきました。

講師に出口美寿恵先生（広島 HART クリニック）をお迎えし、患者ご夫婦にとって納得のできる決断とは何であるかに寄り添いながら、どのように自己決定への援助をしていけば良いかについてお話いただきました。貴重な症例報告からは卵子提供による体外受精の現状を知ることができ、継続的な関わり大切さも再認識できました。また、架空事例を用いた事例検討（グループワーク）では、職種や置かれている環境は各々違うものの活発な意見交換がされました。卵子提供による体外受精を患者様からご希望された場合、まずはその気持ちを受け止め、今日までの治療経過を振り返り、労うことが大切であり、その後ご夫婦のみならずご夫婦を取り巻くご家族への様々な支援が必要であると話し合われました。

勉強会を通じて得ることのできた知識や情報を、今後の看護に活かしていきたいと思っております。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を右の連絡先までご連絡ください。よろしく願い申し上げます。

教育推進委員会担当理事 森 恵美
阿部 正子

教育推進委員会担当理事

森 恵美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL：043-226-2410, FAX：043-226-2414

もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。



不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
7

「ホッとすると聞いて」

済生会松阪総合病院 長谷 充子

はじめまして、3期生の長谷充子です。私は、認定看護師の教育課程を修了してから不妊外来に異動しました。治療を受けられる方と接したり相談を受けたりする中で、患者さんの求めに答えられていないと感じたり、どのようにしていったらいいのかと悩むことも多くあります。ケアについて考えさせられた最近のことを話させていたきたいと思います。

長期間の治療後に妊娠し分娩されたある方にその後の様子を伺うと、「楽しい、本当に楽しいです。」そして、「嬉しいでしょ」・・・とみんなに言われるけど、嬉しいというよりホッとした。治療している時はそれほど感じてなかったけれど、今思うと大変だったんだと思う。」とも話されました。

とても嬉しそうに話されましたが、このホッとしたという言葉聞き、この方が背負ってこられたものの大きさを感じました。この方の治療期間の内、私が知っているのは半分にもなりません。受診時には、その時々不安な気持ちを話されながらも、いつも落ち着いてみえる印象でした。これより以前に、治療中の思いを聴かせていただく機会がありましたが、多くの方々がそうであるように、周囲からのプレッシャーを受けストレスを感じてみえました。思うように進まない治療経過でしたが、信じて待っておられたのだと思います。長い不妊治療の間に、うまくバランスをとる術を自然と身につけられたのかもしれない。これまでどのような気持ちの変動を経験しながら通院を続けてこられたのか、背負っている重さを少しでも軽くできるようなケアができていたのか振り返り、育児期を楽しく過ごされている様子に心が温かくなるのと同時に、自分の力不足に気持ちの落ち込みを感じた出来事でした。

受診されている方々は、無事に妊娠出産されるばかりではありません。様々な思いで治療を受け、また治療を終えられていきます。業務に流され、患者さんに添えるようなケアを行っていくには、一緒に悩み考えながらという状態ですが、それぞれの方が抱えている期待や不安を感じとり、背負ってみえる大きさや重みを少しでも軽減できるようなケアをしていきたいと思っています。

次回は、尾形留美さんにバトンをお渡ししたいと思います。よろしくお願いたします。

掲示板

その1

広報担当では、会員増を目指し、「会員の輪を広げよう!! -各会員の皆様お一人様紹介キャンペーン-」を勧めております。本号に新しく作成した「日本生殖看護学会入会のご案内」と入会申込書を同封させていただいておりますので、ぜひお近くの方をお誘いください。

その2

「不妊ケア.com」では、「カップルの親密さ自己診断プログラム」と「カップルの親密さ向上プログラム」を展開しています。ぜひ、一度覗いていただき、不妊に悩んでいらっしゃるカップルにご紹介いただけたら幸いです。

兵庫県立大学看護学部 野澤 美江子

不妊治療をカップルで乗り切るために

不妊ケア.com
www.funincare.com



一人で悩んでいませんか?

一人で頑張りすぎていませんか?

◆お二人がお互い支え合い、協力し合って不妊治療を乗り切ることをサポートするために、このホームページを作成しました。

◆「カップルの親密さ」に関する質問に回答いただくと、その結果に応じたアドバイスが画面に表示されます。

まずは、不妊ケア.comへアクセスしてみてください。



<連絡先> 兵庫県立大学看護学部 生涯健康看護講座 野澤美江子
TEL.(078)925-9420 FAX.(078)925-0878 E-mail nozawa@cnas.u-hyogo.ac.jp

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380 もしくはE-mail：jsin@slcn.ac.jp まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成21年度会費（平成21年9月1日～平成22年8月31日の諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。

口座番号：00170-2-333413 加入者名：日本生殖看護学会 年会費：6,000円

*ニュースレターに「払込取扱票」が同封されていない方は、納入いただく必要はございません。

なお、過年度分につきましても、ぜひ納入をお願い申し上げます（該当される会員様には、今回振込取扱票を同封させていただきます。入金確認の時間差もあることから、既にご入金いただいております場合は、悪しからずご容赦ください）。

編集後記

今号から、新しい広報委員のメンバーでお届けしています。今、日本はバンクーバーオリンピックで沸いています。前は無念にもメダル1個でしたが、今回メダルの数が順調に伸びていることはとても嬉しいことですね。皆さんは、どんな競技に熱中していますか？

花粉症の人にとっては憂うつな季節かもしれませんが、春がもうそこまで来ています。桜前線は、例年よりも早く上がってきそうと聞いています。この季節、職場を変わる人や生活の基盤を変える人も多いことでしょう。ぜひ新しい船出が幸多きものとなりますように。

（広報委員：野澤美江子、矢野恵子）

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>